

香川大学学生の性意識

保健体育・講師

酒 井 直 之

はじめに

「性は青少年期を通じて、だれもが悩む問題である。しかし現実には、性の問題を避けて通る傾向は依然として強い。そして正しい性知識の不足から、不必要な苦悩に陥り、また、思わぬ過ちをおかすことも多い。」

(平井信義著「性を考える」講談社現代新書より)

本学に奉職して4年目、一般教育の「保健概論」を担当して3年目になる。

その間、この科目が必須であり、しかも著者は全学部(教・経・農学部)を担当していることに、又内容が人間の生命に直結した健康というテーマだけにその重要性和責任を常に感じてきた。

その中でも特に、学生の強い関心を持っている「性教育」について、本年度からは受持時間の約半分をあて、スライドを用いながら講義している。

近年、青少年に対する性教育の必要性が叫ばれ、欧米各国の現状も紹介され、小中高校でも力を入れ始めてはいるが、実際にはまだまだ“遅れている”というのが現状のようである。今回の調査でも「今まで小中高校で適切な性教育を受けてきたと思うか」という問いに対し、男子学生の86.6%、女子学生の85.1%が「そうは思わない」と答え、又「学校教育の中に性教育は必要であり、もっと充実すべきである」と答えた者が86.6%、69.8%もいた。

人間には男と女という性の存在があり、その両性の結合により新しい生命を生みだす。その種族保存の本能的条件としての「性の目覚め」から「その“結合”を期して性欲が最も盛んになる時期」にあたる大学生期に適切な性教育を行なうことは、保健を担当する者としての義務と考え、今後とも力を入れていきたいと考えている。

研究目的

今回は、大学生の性に関する知識と意識そして考え方、悩みなどの調査を行った。性に関する正しい知識と意識を与え、人間存在の中で性の本質を正しく位置づけさせることを目的とする性教育を今後よもより充実させ推進するための基礎資料になればと思った次第である。

研究方法

大学生の性意識を調査し、その結果をまとめ、考察した。

調査方法——質問紙法による

調査時期——昭和52年5月

調査対象——本学学生男女 336 名を性教育の講義を開始する前に調査した。

農学部2年生	男子82名・女子16名
教育学部1年生	男子52名・女子186名
合計	男子134名・女子202名

大学生の性意識のアンケート調査

I 性に関する知識

A 女性の生理的現象(妊娠)についての基礎知識

- 1 正常な妊娠期間の最終の月経の第1日から平均 (イ 240日, ロ 280日, ハ 300日, ニ 365日, ホ その他)
- 2 妊娠すると月経はどうなるか (イ それまでと変わらずにある, ロ 不規則になる, ハ 完全に止まる, ニ その人により異なる, ホ その他)
- 3 母体内で成長しつづけている生命を何というか (イ 嬰兒, ロ 胎児, ハ 新生児, ニ 乳児, ホ 幼児, ヘ その他)
- 4 女性の妊娠初期基礎体温はどのように変化するか (イ 高くなる, ロ 変わらない, ハ 低くなる, ニ 高くなったり低くなったり急激に変化する, ホ その人によって異なる, ヘ その他)
- 5 妊娠不可能な期間はどのような状態か (イ 基礎体温が高くなってから3日目以後月経まで, ハ 月経期間, ニ 月経から基礎体温が高くなるまで, ホ その他)

B 男性の生理的現象についての基礎知識

- 1 男子の射精は何歳頃から始まるか (イ 3~4歳, ロ 7~8歳, ハ 11~12歳, ニ 15~16歳, ホ 18~19歳, ヘ その他)
- 2 1回の射精で精子は何個くらい出るか (イ 300~500, ロ 3万~5万, ハ 300万~500万, ニ 3億~5億, ホ その他)

C 性に関する用語の知識

〔 次の言葉のうち、正確にいえるものには○、言葉は知っているが適確に読めないものには△、全く知らないものには×をつけよ。〕

- 1 アクメ、2 アンドロジェン、3 エストロジェン、4 ペニス、5 ワギナ、
6 コンドーム、7 ザーメン、8 ペッサリー、9 ピル、10 フェラチオ、
11 クンニリングス、12 ペッチィング

〔 平井信義編「性教育指導事典」(ぎょうせい)「性教育の学習指導に用いられる基本用語」より〕

II 性知識の情報源

- 1 性の知識をどのようにして得たか (イ 学校で習った、ロ 医学書など専門書を読んだ、ハ 友人から聞いて知った、ニ 家族より、ホ 週刊誌、月刊誌などポルノ的雑誌から、ヘ テレビ、映画など、ト その他)
- 2 どんな場面に性的興奮を感じるか (イ 性的な記事、小説を読んで、ロ ノード写真を見て、ハ ポルノ映画を見て、ニ 友達と性に関する話をして、ホ 自分で想像して、ヘ 異性のからだに触れて、触れられて、ト その他)
- 3 性知識の不足、認識の甘さを感じることはあるか (イ ない、ロ ある)
- 4 そういふ時は誰れにきくか (イ 誰れにもきけない、ロ 週刊誌などを見る、ハ 性教育に関する文献や医学書を見る、ニ 友人にきく、ホ 家族にきく、ヘ 先生にきく、ト その他)

III 異性との交際について

- 1 何歳くらいから自分の性を意識したか
- 2 何歳くらいから異性を意識したか
- 3 初恋の思い出は何歳頃か
- 4 現在恋愛関係にある異性がいるか
(イ いる、ロ いない)
いない人は (ハ 欲しい、ニ べつに欲しくない)
- 5 好きな異性に対してはどこまで認めるか (イ 手を握ったり肩に手をかけたりする、ロ キスをしたり抱き合ったりする、ハ 局部に触れる、触れさせる、ニ 性交まで進んでよい、ホ その他)

IV 男性、女性の役割

- 1 人間(社会)生活における男性の役割は?
- 2 女性の役割は?
- 3 仮りにもう一度生まれなおせるとしたら男に生まれたいか、それとも女か?

V 性の風潮について

- 1 現在の日本の性の風潮についてどう思うか
- 2 フリーセックスということについてどう思うか

VI 性に関する悩み、質問など

- 1 性に関する悩みがあるか (イ ない、ロ ある) ある人は具体的に記せ
- 2 性に関する質問があったら記せ

VII 性教育について

- 1 今まで小中高校で適切な性教育を受けてきたと思うか (イ 思う、ロ 思わない、ハ その他)
- 2 学校教育の中に性教育は必要だと思うか (イ もっと充実すべきである、ロ 今のままでよい、ハ 必要ない、ニ その他)
- 3 大学の「一般保健概論」の授業に望むことなどを記せ

結 果 と 考 察

I 性に関する知識について

A 女性の生理的現象(妊娠)についての基礎知識

正常な妊娠期間について、正解の280日と答えた者が男子で45.5%、女子で40.6%と以外に少なく300日と答えた者が48.5%、53.5%とむしろ多い。普通「トツキトーカ」ということから300日と誤って覚えているものと思われる。

妊娠するとどうなるかの問いに対しては、普通は妊娠すると月経は停止するが、時として妊娠初期には月経様の出血がみられることもあるので「= その人により異なる」も正解とすると、男子で92.5%、女子では100%の高い正解率を示している。

表1 妊娠についての基礎知識各項目別回答率(%)

		男子	女子			男子	女子			男子	女子
1	イ	0	1.5	3	イ	3.0	5.9	5	イ	14.9	13.9
	ロ	45.5	40.6		ロ	97.0	94.1		ロ	24.6	20.8
	ハ	48.5	53.5		ハ	0	0		ハ	25.4	26.2
	ニ	1.5	0.9		ニ	0	0		ニ	28.4	32.2
	ホ	4.5	3.5		ホ	0	0		ホ	6.7	6.9
	ヘ			ヘ	0	0					
2	イ	0.7	0	4	イ	59.7	68.9				
	ロ	6.0	0		ロ	4.5	1.0				
	ハ	91.8	99.0		ハ	14.9	20.3				
	ニ	0.7	1.0		ニ	13.4	7.9				
	ホ	0.8	0		ホ	3.0	2.0				
	ヘ			ヘ	4.5	4.9					

母体内で生長しつづけている生命について胎児と正しく答えたものが男子97.0%、女子94.1%であるが、嬰兒と誤って答えた者が3.0%、5.9%いる。

名古屋の私立中京女子高校で1,350人を対象として行なった性意識アンケート調査によると上記の同じ質問に対し女子高校生は、「正常な妊娠期間は」の問いに「最終の月経の第1日から平均280日」と正しく答えたのは37%。「妊娠すると月経はどうなるか」の問いに1年生の27%がわからないと答え、「母

体内で生長を続けている生命を何というか」に「胎児」と答えたのは80%で、1年生には「嬰兒」「わからない」が25%もあり、女性の生理的現象についての基礎知識があいまいだとしている。(朝日新聞 1977.2.23 朝刊)

本学の女子学生の場合、妊娠後の月経については100%正解しているものの、母体内で生長している生命を「嬰兒」と答えた者が男子より多い5.9%もいることや、正常な妊娠期間を正しく答えた者が40.6%と、女子高生よりも多少正解率を上回ってはいるものの、まだあいまいさを残している点が注目される。

妊娠初期の基礎体温については、「高くなる」と正しく答えた者が男子59.7%、女子63.9%とおおよそ学生の4割が誤った回答をしている。ことに全く逆の「低くなる」と答えた者が14.9%、20.3%もいることに注目したい。

この基礎体温に関する知識とこれから述べる妊娠不可能な期間の知識が非常にあいまいなことから考えても、正しい妊娠、家族計画に関する知識を教えることの必要性を感じる。

妊娠不可能な期間に関しては、「基礎体温が高くなってから3日目以降月経まで」と正しく答えた者がわずか男子で24.6%、女子で20.8%であり、排卵と基礎体温との関係、どの期間に結合すると妊娠するのかなど、特に女子の約4/5が知らないということが注目されよう。

B 男性の生理的現象についての基礎知識

射精が何歳頃から始まるか、乃ち男子の第二性徴の中心となる精通現象については、各個人によって異なり、又その時期についての調査が少なく調査してもはっきりつかめないといわれているが、普通、陰毛の発生と変声の中間の頃にこの現象のあるものが多いといわれている。又小学生の終わりには男子の20%が精通現象を体験し、50%を越えるのは中学2年生の頃と考えられている。

従って、「11~12歳、15~16歳」を正解とすると、男子で94.0%、女子で97.6%となる。しかし男子の場合、15~16歳と答えた者が87.3%、以下11~12歳6.7%、7~8歳3.7%、18~19歳1.6%という回答率であり、これは各人

表2 男性の生理的現象についての基礎知識回答率 (%)

		男子	女子			男子	女子
1	イ	0	0	2	イ	0	1.5
	ロ	3.7	0		ロ	3.7	30.7
	ハ	6.7	48.1		ハ	6.7	26.2
	ニ	87.3	54.5		ニ	87.3	34.7
	ホ	0.7	0.5		ホ	2.3	6.9
	ヘ	1.6	1.9				

の経験により記入したものと思われる。

また、1回の射精で出る精子の数については正解の3～5億と答えた者は男子の87.3%に対し女子は34.7%と低率である。

女子の場合、さらに、3～5万と誤って答えた者が30.7%、300万～500万と答えた者が26.2%もいたことなど注目される。

C 性に関する用語の知識

- 「快感の極致」の意のアクメに関しては男子の約半数、女子のほぼ全員が知らないと答えている。
- 男子の性ホルモンであるアンドロジエンに関しては男子がやや女子よりは知っているものの、全体的に低い。
- 女子の性ホルモンであるエストロジエンに関してもアンドロジエン同様である。
- 男子の放尿器官・生殖器であるペニスに関しては男子自身は96.3%とほとんどの者が知っているにもかかわらず女子は30.7%しか知らず、全く知らないとする者が23.8%もいることが注目される。
- 女子の膣であるワグナという言葉に関しては、女子自身がほとんど知らないということが大きな特徴であろう。男子の知らない者15.7%に比し女子は71.8%の者が知らないと答え注目される。
- コンドームに関しても女子は男子に比べ知っている者が少なく、言葉は知っていても適確に説明できない者が約半数いる。

表3 性に関する用語の知識回答率(%)

		男子	女子			男子	女子			男子	女子
1	○	20.1	0.5	5	○	64.2	7.9	9	○	84.3	1.0
	△	26.9	1.0		△	18.7	20.3		△	13.4	42.1
	×	51.5	93.0		×	15.7	71.8		×	1.5	6.9
	無	1.5	0.5		無	2.4	0		無	0.85	0
2	○	11.9	6.9	6	○	93.3	44.1	10	○	63.4	4.0
	△	14.9	13.9		△	3.7	47.0		△	17.2	21.8
	×	71.6	79.2		×	3.0	5.4		×	18.7	73.8
	無	1.6	0		無	0	3.5		無	0.7	0.4
3	○	13.4	12.9	7	○	62.7	3.5	11	○	32.8	1.5
	△	12.7	13.9		△	12.7	9.4		△	21.6	5.4
	×	73.1	73.2		×	24.6	85.6		×	44.8	92.6
	無	0.8	0		無	0	1.5		無	0.8	0.5
4	○	96.3	30.7	8	○	52.2	10.4	12	○	82.8	38.6
	△	3.0	44.6		△	19.4	25.2		△	15.7	54.0
	×	0.7	23.8		×	27.6	64.4		×	1.5	7.4
	無	0	0.9		無	0.8	0		無	0	0

7 精液の意のドイツ語で一般によく用いられるザーメンという言葉についてもやはり女子は知らないとする者が多く、男子の24.6%に対し85.6%もいる。

8 女性の使用する避妊用具であるペッサリーもやはり女子の方が男子に比べ知らないと答えている者が多い。

9 経口避妊薬のピルに関しても女子の知識度が低く、約半数は知っているものの42.1%が適確に説明はできないとし、6.9%が全く知らないと答えている。

10 女性が唇や舌でペニスを愛撫する方法であるフェラチオに関しては男女の知識度の差が大きく、男子の63.4%に対し、女子はわずかに4.0%である。

11 男性が唇や舌でワギナを愛撫する方法であるクニリングスは、フェラチオより全体的に知識度は低いものの、これも女性はほとんど知らない(92.6%)

12 性的愛撫であるペッティングに関しても男子の方がよく知っており、女子では言葉は知っていても適確に説明できないとする者が半数以上いる。

以上、性の情報源にも関連することではあるが、表3で見ると、女子が

男子に比べて「知らない」とする者が多い。もちろん今回は自分の判断で書かせた訳で、テストをした訳ではないが、およその傾向としてやはり男子の方がよく知っているといえよう。

II 性知識の情報源

1 性知識の情報源

性に関する知識をどのようにして得たかについては表4で見ると、男子では「学校で習った」とする者(22.4%)よりもむしろ雑誌(62.7%)や友人から聞いて知ったとする者(45.5%)の方が多。また女子に比し「医学書など専門書を読んだ者」も18.7%と多く、性の情報を積極的にとり入れようという姿勢が強いように見られる。

一方、女子の場合、多いのが「友人から聞いて知った」で55.9%、つづいて「学校で習った」で、男子が22.4%に対し女子が46.0%と多い。これは学校によっては女子に対してだけ性教育を行なうところもあるということか又は同じ教育を受けても女子の方がより熱心に聞いているかであろうが、とにかく情報

表4 性知識の情報源回答率(%)

		男子	女子			男子	女子
1	イ	22.4	46.0	3	イ	19.4	26.7
	ロ	18.7	2.0		ロ	79.9	73.3
	ハ	45.5	55.9		無	0.7	0
	ニ	2.2	6.4	4	イ	19.4	29.2
	ホ	62.7	26.2		ロ	76.5	6.9
	ヘ	18.7	10.4		ハ	28.4	13.9
	ト	8.2	2.5		ニ	39.6	29.7
2	イ	59.7	65.3	ホ	2.2	9.4	
	ロ	40.3	3.5	ヘ	0.7	0	
	ハ	26.9	1.0	ト	9.0	10.3	
	ニ	2.2	4.0				
	ホ	23.1	3.5				
	ヘ	32.1	5.0				
	ト	10.4	18.3				

1, 2, 4は重答なので合計は100%を越える

源としては男子の2倍以上の率になっている。

また、男子ほど率は高くないが、26.2%の者が雑誌などで知識を得ている。「家族より」は女子では6.4%で、男子の2.2%よりは多いものの他に比べ低率であり、大きな特徴となっている。

性教育はどの時期に、どこで、誰れが行なうべきなのかにも関連しようが、日本ではまだ学校や家庭での性教育が遅れていることが痛感される。

性教育用語辞典(重田定正著・ぎょうせい刊)によれば、「現状では学校でも家庭でも基礎的、系統的な知識を十分に与えていない。青少年の性知識の入手先は、新聞・雑誌・週刊誌・映画・テレビ・ラジオなど、マスコミ性のコマージュリズムを通じたものが最も多く、友人、先輩から興味本位にささやかれたものがほとんどである」と現状を指摘している。

本調査においても、男女とも学校や家族から得た知識よりも、友人との会話の中で、あるいは雑誌などを通してというのが多く、ことに男子において、よりその傾向が強い。これは、性教育の目的の一つにある「性に対する正しい認識と科学的な知識を身につけさせる」に、時には逸脱する危険性を持ち、性をただ興味本位にとらえ、知識は種々雑多で断片的になり、大きなあやまちを犯してしまうなどのひとつの原因としても考えられよう。

青少年の性知識の情報源は今述べた性教育の目的に添い、学校・家庭の率が今後増して行くのが望ましいと考える。

2 性的興奮を感じる場面

男女ともに多いのは「性的な記事、小説を読んで」で、男子59.7%、女子65.3%である。女子の場合は男子に比べ、他の場面では感じると答えた者が少ないが、文字により、その場面を想像し、性的興奮を得る者が多いというのが特徴である。

男子においては、ヌード写真(40.3%)、ポルノ映画(26.9%)など視覚を通して、または実際に異性に触れて触れられて(32.1%)、または、自分で想像して(23.1%)と性的興奮を感じる場面が女子に比較し他にもはるかに多いのが特徴であり、各々の性の特有の心理として興味深い。

3 性の知識と認識について

「性知識の不足・認識の甘さを感じることはあるか」の問いに対し、男子は79.9%、女子は73.3%の者が「ある」と答えている。これに関しては客観的なテスト、質問をした訳ではなく、あくまでも本人の主観的意見ではあるが、Ⅰの性知識、Ⅱのその情報源の調査結果ともあわせ考えると大きな問題である。

4 その解決方法

さらに問題となるのは、その知識不足と認識の甘さをどのようにして解決させるかということであるが、表4の4に見るように、男子においては「週刊誌などを見る」が圧倒的に多く76.5%、つづいて「友人に聞く」39.6%、「性教育に関する文献や医学書を見る」が28.4%と多く、「誰れにも聞けない」とする者が19.4%あり、実際に「家族や先生にきく」と答えた者が2.2%、0.7%とほとんどいない。

女子においてもやはり「誰れにもきけない」と答えた者が多く29.2%で、男子よりさらに10%も多い。家族にきく者は9.4%、先生にきく者は皆無である。女子の場合もやはり多いのが「友人にきく」で29.7%、男子よりは少ないが、「医学書などを見る」のが13.9%、週刊誌などに解決をみいだす者は女子には少なく6.9%であった。

以上のように、性に関する知識と認識は、家庭・学校に相談して解決しようとする者が男女ともに少なく、誰れにもいえず、せいぜい友人にたずねる、本を読む、男子においては週刊誌にたよるというケースが多いようである。

Ⅲ 異性との交際について

子供達が思春期に達すると脳下垂体からの性腺刺激ホルモンの分泌が増加し、男子には男性、女子には女性ホルモンがそれぞれ分泌されることになる。初潮、精通現象が現われるのもこの頃であり、そして体つきが変わるなど外面的な変化が起きると同時に「異性への関心の発生」という内面的な変化もおこる。

そのような「性のめざめ=性の意識化」が起った時期についてアンケートし

表5 異性との交際について回答率 (%)

	解答率		男 子	女 子		解答率		男 子	女 子
	順	位				順	位		
1	1	13才(23.1)	12才(25.7)	4	イ	16.4	10.4	4	ハの ニ)う
	2	12 (22.4)	13 (25.2)		ロ	78.4	86.6		
	3	15 (14.9)	14 (12.9)		無	5.2	3.0		
	4	10 (12.7)	15 (10.9)			82.0	62.3		
	5	14 (10.4)	10 (6.4)			18.0	37.7		
2	1	10才(20.9)	12才(30.2)	5	イ	18.7	46.0	5	ハ ニ ホ
	2	13 (14.9)	13 (28.7)		ロ	29.1	39.6		
	3	12 (13.4)	14 (12.9)		ハ	5.2	3.0		
	4	14 (11.9)	10 (9.9)		ニ	26.9	1.5		
	5	11 (11.2)	11 (6.9)		ホ	20.1	9.9		
3	1	12才(19.4)	12才(22.8)						
	2	10 (16.4)	12 (20.8)						
	3	13 (11.9)	14 (13.9)						
	4	14 (11.9)	10 (10.4)						
	5	16 (6.0)	15 (8.4)						

た結果が表5の1, 2, 3である。

それによると、男女ともに12~13歳の頃に自分の性を意識しはじめ、異性を意識しはじめたのは女子は自分の性を意識しはじめたのと同様12~13歳の頃が最も多く、男子の場合はそれよりも2歳早く10歳で意識した者が20.9%おり、つづいて13歳、12歳となっている。

初恋の思い出については、女子の場合はやはり12~13歳の頃が多く、男子は12歳、13歳、つづいて13~14歳となっている。

以上のように自分の性を意識したのは男女とも同じ頃であるが、異性への意識・初恋の経験は女子の方が若干早いようである。

恋人の存在に関しては、「いる」と答えた者は男子で16.4%、女子で10.4%であり、「いない」と答えた者のうち、男子では82.0%の者が、女子では62.3%の者が「恋人が欲しい」と答えており、男子の方が女子に比べて積極的に異性を求めていることがわかる。

「好きな異性に対してはどこまで認めるか」の問いに対しては表5の5のよ

うに、男子で「キスをしたり抱きあったりする」までを認めるとする者が29.1%、つづいて26.9%の者が性交まで進んでもよいとしている。また、無答「わからない」を含むホが20.1%で、女子の9.9%に比しても非常に多いことが注目される。

女子においては、「手を握ったり肩に手をかけたりする」ところまで認めるとする者が半数近い46%で、以下順に「キスをしたり抱き合ったりする」39.6%、「局部に触れる、触れさせる」が3.0%、性交までは、男子の26.9%に比し、1.5%と非常に少ない。

学習院大学の田中靖政教授の学習院・慶応・東大の学生（男子437人・女子80人）の性意識を調査した結果によると、男子では35%、女子では17%が性行為の許容限界として性交を認めているという。また米国においては、女子の50%以上が「性交まで進んでよい」と考えているという。それらに比べると1.5%というのは非常に少なく、都市と地方の意識の差をそこに見い出す。

Ⅳ 男性・女性の役割

1 男性の役割

表6は男子、女子から見た「男性の役割」についての意見をまとめたものである。

表6 人間（社会）生活における男性の役割

	男子	女子
社会の発展に貢献すべき、社会を支え指導的役割をする。国家をつくる	29.9%	23.2%
家族を養う、守る、妻子をいたわる。明るい楽しい家庭をつくる。大黒柱となる	20.1	32.7
家族を養うために働く。仕事をする。	17.9	9.4
子供をつくる、育てる	16.4	4.0
女性をリードする、助ける、守る、愛す 女性と調和する、女性にとって不可欠なもの	6.7	8.9
生計を立てる、収入源	3.0	2.3
無回答、わからない	13.4	27.2
	男子	女子
その他	女性に欠けているものの補足 責任をもつ 能動的役割 など	大事な時に力を出す 責任感をもつ 開拓的、積極的で未来性のある役割 物事を前進させる など

それによると、男女ともに男性の社会的な活動、貢献、指導的役割を認めており、それに関連して仕事も男性の役割としている。女子の見る男性の役割についてみると、特に「家族を養う、妻子をいたわる」(32.7%)や「女性を助ける、いたわる……」(8.9%)など、女性をリードし、養い、いたわる役割について多く期待していることがわかる。

男子については「子供をつくる、育てる」が、16.4%と女子(4.0%)の4倍強の者が男性の役割とみていることが興味深い。

2 女性の役割

表7 人間(社会)における女性の役割

		男子	女子
子供を生む、子孫繁栄につくす 育児、しつけ、教育		41.0	25.7
家庭を守る、家庭内をリードする、明るくする 家事、家庭的なやさしさ、うるおい		33.4	36.1
男性を助ける、やさしくつつみこむ、なぐさめる 男性の補助的役割、夫につくす 夫の良き伴侶、心のかてになる 夫の良き理解者、協力者になる		17.2	26.3
社会を支える、明るくする、貢献する 間接的に社会に役立つ 生活の維持と社会の発展に努力する		7.5	5.9
社会的に責任をもたされる立場につく 職業をもつ、社会に出る、 夫の収入の少ない時には働く		0	5.4
無回答、わからない		14.2	26.7
その他	受動的役割 男性にはできない細かいことをする など	男性にはできないことを補なう 男性に甘えるばかりではいけない 愛にあふれた存在 など	

男子・女子から見た「女性の役割」についての意見をまとめると表7のようになる。

それによると、「子を生み育てる、家庭を守るなどの役割がある」とした者が男女ともに多く、70%以上を占めている。「男性を助け、夫につくす」という対男性へのおもいやりに関してはむしろ男子よりも女子の方が多く、男子の17.2%に対し26.3%となっている。

又、「社会に出る、職業につく」ということに関しては、男子はそのような

意見が全くないのに比し女子の5.4%の者がそのように答えているのが注目される。

3 男に生まれたいか、女に生まれたいか

「仮りにもう一度生まれなおせるとしたら、男に生まれたいか、それとも女か」という問いに対し興味深い結果がでている。表8はその回答率であるが、男女とも自分の性を望む者が異なった性を望む者よりも多いが、男子の方が85.8% (男→男)、女子が53.5%(女→女)と、男子の方が多い。その理由については、表9の示す通りである。

表8 男に生まれたいか、女性に生まれたいか 回答率(%)

		男 子	女 子
3	イ	85.8	42.6
	ロ	11.2	53.5
	無	3.0	3.9

表9 表8の理由

男 子		女 子	
男～	女～	男～	女～
自由である (23.1) 理由なし (18.7) 現在の性で満足している (6.7) 男性の方が優越感を感じるから (6.0) 女性は不利 (5.2) 性的に複雑でない 妊娠しなくてよい (3.7) 男性が有利 (3.0) 生きがいを感じる (3.0)	今男だから女になってみたい (4.5) 楽である (1.5) 他に 違った見方ができる 社会的責任が少ない 子供が生みたいなど	自由である (15.3) 自分の好きな道、職業にどこまでも挑戦できる (7.4) 男性のさっぱりとした性格が好き (5.9) 男性が有利 (4.5) 今女だから男の世界を経験したい (2.0) 女性は受身的立場が多い (1.0) 男性が素晴らしく思える (1.0)	今のままで満足 (11.9) 理由なし (7.9) 子供を生み、育てられる (4.0) お嫁さん、母親になりたい (2.5) ある程度大めにみられる (2.5) お金をかせがなくてもよいから (2.0) 美しい (1.0)
他に 女はつまらない ブスに生まれるのがこわい 女性が嫌い 女性はお金がかかるなど		他に 女の子がいや 女は現実的すぎる 自分に甘えがある 浪人できる 社会的に進出できない 子供を生みたくないなど	他に 女としての人生をもう一度じっくりと 女性が得おしゃれが出来る 今度は素敵な女性に 素敵な男性を愛せるから 女の子の方が誰れからも可愛いが ってもらえるなど

V 性の風潮について

1 現在の日本の性の風潮について

自由記述式で学生の書いた意見をまとめると、表10のようになる。

表10 現在の日本の性の風潮について（男女全員）

意見	回答率(%)
興味本位で快楽主義に走っている ポルノ映画、雑誌などが氾濫している マスコミ機関による悪影響で退廃的である	21.4
現在の風潮はよくない、健全でない、乱れている	20.2
陰にかくれた暗いじめじめとした、いやらしいイメージがある 外国のように開放的でなく、タブーが多過ぎ閉鎖的である もっとオープンにすべきである、明るくすべきである	19.3
正しい性教育がほとんど実施されていない 性を真剣に考える場が少ない	15.2
別にどうも思わない、こんなものだと思う	7.4
非道徳的である、売春・性の商品化、無知からの性犯罪	5.4
国の性に関する規制が誤っている 政府の政策が誤っている	3.9
性に関し大人達に反感を感じる、大人からのおしつけがある	2.1
性に対する偏見がある	1.8
性に関し欧米に比し、かなり後進的	1.5
外国の性の風潮に左右されている	0.9
考え方が古い	0.9
その他	

2 フリーセックスについて

フリーセックス (free sex) とは、人間性に基づいた男女の自由な性愛、即ち、宗教的戒律や社会の性秩序維持のために縛られず、強制された既成の制約的、固定的な性規範に男女お互いの愛情の高まりを唯一最高の理由として肉体的な性行為をするという考え方や現象をいう。しかしこの真の意味を理解せず勝手気ままな乱交をし、性の解放を性表現の露出と思違いしている現代の性風潮は誤りである。（「性教育用語辞典」p.217～9 より）

表11 フリーセックスについて (男女全員)

意 見	回答率(%)
賛成できない, 許せない, 抵抗を感じる, 反対である, よくないと思う。	30.1
責任をとるならかまわない, 本人の自由にまかせる, 愛情を確かめ高めるのであれば良い, 情緒しなければ良い, 性病のことを心配すれば良い, 完全な避妊ができるのなら, 人間の本能であるからやむを得ない	28.3
わからない, よく理解できない, 言葉の意味がわからない	13.7
動物的でいや, いやらしい感じがする, いいイメージではない, 本能・衝動的なセックスは許せない, だらしない, 節操がない, バカげている, 不潔だ, 卑劣な人間がやることだ, 野蛮そのもの, 無責任だ, 秩序をみだす, 自分を大切にすべき	9.5
別にどうも思わない	6.0
良い	5.1
結婚するまで純潔でいたい, 謹しむべきもの, 人格を尊重したい, 愛のないセックスはよくない	2.4
否定はしない, 別にかまわない, セックスを束縛することはできない	2.1
その他	

今回のアンケートでは, 事前の「フリーセックス」に対する概念の説明をしなかったために意見も様々であった。

表11は, それをまとめたものであるが, 絶対反対の立場をとる者が32.5%, 条件つきなら認めるとする者28.3%, 良いとする者7.2%という結果を示している。

VI 性に関する悩み, 質問など

1 悩み

性に関する悩みの有無は, 表12に示すように, 男子ではほぼ1/5の20.2%の学生が悩みもっており, 具体的には, 性に関する知識の不足, 性欲の過剰, 性の発散方法, ペニスの短小, 包茎, 自分の生殖能力は正常か, 女性の心理がわからない, 何故女性にもてないのか等々である。

表12 性に関する悩み
回答率 (%)

		男子	女子
1	イ	73.9	4.1
	ロ	20.2	4.5
	無	5.99	1.4

一方、女性は4.5%と男子に比べ少ないが、生理不順、胸が小さい、自分は正常なのか、子供が産めるのか等の不安・悩みをもっている。

2 質問

性に関する質問は女子の方が男子に比べて記入が少ないが、男女ともが多いのが、安全な避妊法、性病についての知識であった。

以下、他の質問事項に関しては次の通りである。

- 性欲をいかに考えるか、発散のしかた
- 男女間の愛情の求め方の違い
- 女性の心理、男性の心理
- 婚前交渉について
- 男らしさ、女らしさについて
- 人間は何故性のことで悩むのか
- 結婚について その意義・性生活のあり方
- 中絶の影響
- 妊娠と生理の関係
- 妊娠中の健康管理について
- ピルは有害か
- 流産、早産の原因
- 双生児について
- ペニスの平均の長さ
- 包茎ではセックスできないのか
- 基礎体温表の見方
- その他

Ⅶ 性教育について

性教育の重要性、必要性についてはここで述べることを省くが、「はじめに」でも述べたように“性”は青少年期を通じてだれもが悩む問題であり、その悩みを解決すべく適切な指導が家庭・学校そして社会ぐるみでなされなければなら

らないはずであるが、残念ながら、性の問題を避けて通る傾向がまだ強いようである。

表13は性教育に関する質問の回答率であるが、男子の86.6%、女子の85.1%が「小中高校で適切な性教育は受けていない」と答え、さらに86.6%、69.8%の者が「学校教育の中に性教育をもっと積極的にとり入れ、充実すべきである」と答えている。

表13 性教育について
回答率 (%)

		男子	女子
1	イ	6.0	8.4
	ロ	86.0	85.1
	ハ	7.5	7.9
2	イ	86.6	69.8
	ロ	6.6	20.8
	ハ	6.0	4.0
	ニ	1.5	5.0

本来であれば、小中高校の性教育でつちかった基礎知識の上に立ち、大学においては、さらに高度な科学的知識と社会における性の問題を追求する科学的な能力・態度等を育成していくことが必要であろうが、この表のように大半が「適切な性教育を受けていない」と答え、しかも実際に、性知識の不足と認識の甘さを訴えている現状では、もう一度基礎から、大学生の年代にあった性教育を推進してゆく必要がある。

学生が大学の「一般保健概論」の授業に望むことは以下の通りである。今後はそれらを参考に、より充実した性教育、保健概論の授業を展開したいと思っている次第である。

- 初歩的なところから講義を進めて欲しい
- 保健の授業にもっと性教育をとり入れて欲しい
- 正確な知識を知りたい
- 問題をあいまいにせず、勇気を出して話して欲しい（小中高校では教える方が変に恥ずかしがっていたようだ）
- 男女の性器について図式的に詳しく説明して欲しい
- 不幸な赤ちゃんを産まないための留意点
- 性病に関して詳しく
- 妊娠中の健康管理について
- フィルム、スライドなどを使って脳裏にしっかりと焼きつくような講義をして欲しい
- その他

おわりに

「性教育は基本的人権と人間尊重を基底とした両性の健全な人間関係を探求し実践させるため、性に関する情報知識を習得させるだけでなく、それらによって社会・文化における性の現象を科学的に理解、認識し、生活や社会における健全な適応能力や調和的態度および心情、情操の醸成と個人や社会における性の問題を追求する科学的態度・能力の育成を目的とする」

（ 現代保健科教育法
第8章 性教育
内山 源著・大修館書店 ）

戦後の純潔教育からさらに「人間存在の中で性の本質を正しく位置づけさせよう」と性教育の充実が叫ばれてから久しい。

今回は、一般教育の保健概論に性教育を積極的にとりあげてゆくに当たって、まず学生の性に関する意識、知識、認識、悩み、そして講義に期待することなどをアンケート調査により把握しようとした。

その結果については、これまで述べてきた通りであるが、性意識は強いにもかかわらず、以外に知識があいまいであり、その情報源も週刊誌や友人同志というのが多く、家庭や学校からというのが少ない。また性教育についても今まで充実を受けていないというのがほとんどであり、多くの素朴な悩みをもち、講義に対する期待も大きいように感じた。

今後ともさらに著者自身勉強と研究を重ね、人間教育・健康教育である性教育を充実させていきたいと思っている。

今回は、まとめるための十分な時間がなかったことと、普段の勉強不足のため、十分な考察が出来なかったことが心残りである。

最後に、本調査に快く応じ、又集計を手伝ってくれた学生諸君に深く感謝の意を表す。

参 考 文 献

「性を考える」平井信義著 講談社現代新書

「性教育指導辞典」平井信義編 ぎょうせい

「女子高校生の性」朝日新聞記事 1977.2.23

「性教育用語辞典」重田定正編 ぎょうせい

「性，保守的な女子学生」朝日新聞記事 1977.1.8

「現代保健科教育法」内山源池著 大修館書店